

岩国基地でのFCLP強行に抗議し、即時中止を求めます

2025年9月19日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

この間、硫黄島でおこなわれてきた米軍原子力空母艦載機による離着陸（タッチ&ゴー）訓練、いわゆるFCLP（Field Carrier Landing Practice）が25年ぶりに岩国基地で実施され、耐え難い爆音被害が住民に押し付けられています。訓練は9月17日から26日の予定で実施されており、22時を過ぎても爆音が夜の街に響き渡り、住民からは怒りの声があがっています。

FCLPは、米軍機が暗闇に紛れて海上の空母から敵地に出撃し戻ってくるという「なぐりこみ」任務を遂行するためのものであり、「日本防衛」とは無縁のものです。住民の安心安全な暮らしを脅かす訓練の強行に抗議するとともに、ただちに中止することを求めます。

山口県や岩国市を始め周辺自治体は、「FCLPの岩国基地での実施は容認できない」と、今回の訓練の中止を政府に求めています。が、「訓練は米国の抑止力・対処力強化のために重要だ。実施はやむを得ない」（中谷防衛大臣）などと言って、地元の声に背を向けており、許されません。

FCLPが繰り返されてきた厚木基地のある神奈川県綾瀬市の刊行物には、その被害について「昼間時の騒音はもとより夜間連続離着陸訓練がもたらす騒音は、受忍の限度を超えた耐え難いものとなった」と告発し、「体が休まらない、寝られない」、「テレビや電話の声が聞こえない」「防音工事の効果がない」「子どもが引きつけを起こす」「病気になる、ノイローゼになる」などの声を掲載しています。

今回のようにFCLPの強行が各地で繰り返されることは絶対に許されません。また、FCLPの訓練場は、2028年以降、硫黄島から鹿児島県の馬毛島に移転され深夜3時までの訓練が計画されていますが、周辺住民の健康と静かな夜を奪う訓練は、どこであっても許されません。

アメリカの対中国軍事戦略にもとづく軍備拡張や軍事演習拡大は、日本を守るどころか日本を戦場にする危険を高めるばかりです。

日本政府は軍事ではなく、外交による国際平和実現のための積極的な役割を果たすことを強く求めます。

以上